

工学部 F D 委員会

平成 20 年 5 月 9 日

平成 16 - 19 年度授業アンケートの結果とその活用について

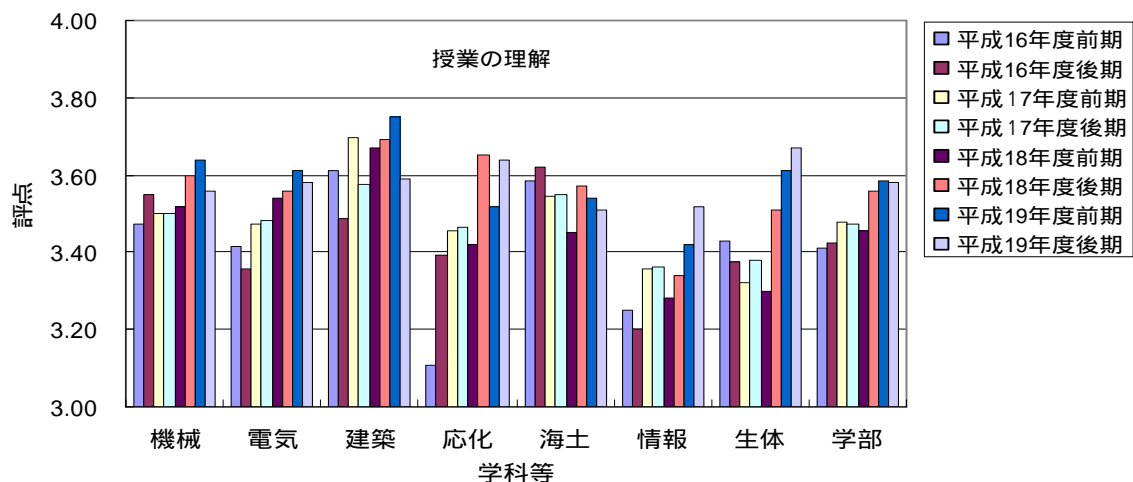
工学部 F D 委員会では平成 16 年度から継続して学生による授業評価アンケートを実施しています。平成 19 年度後期までのアンケートデータの結果が出ていますので、その結果の一部を公表します。工学部では学生が授業内容の理解を深め、教育の質の充実を図る試みを継続して行っているところです。平成 16 年度前期～平成 19 年度後期までの授業アンケート結果を年度(前期・後期)順に比較して示してあります。

授業アンケートでは 15 項目について質問しました。各質問の内容は 5 つの回答(評価)に分けて行いました。その質問項目 , , , , , は以下のようなものでした。

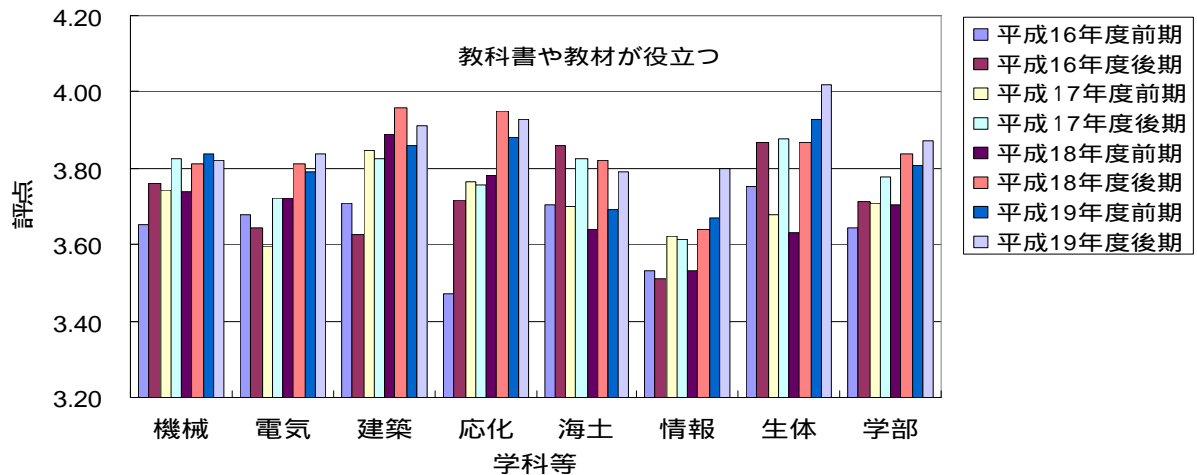
項目	質問の内容	評価				
		5	4	3	2	1
	授業は理解できた	大いに そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	全くそうは 思わない
	使用した教科書や教材は授業 の理解に役立った	大いに そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	全くそうは 思わない
	シラバスに記載された授業目 標を達成できそうか	大いに そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	全くそうは 思わない
	学生に理解させようとする教 員の熱意が感じられた	大いに そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	全くそうは 思わない
	1 コマ(90 分)の授業に対 して、予習と復習の時間を合 わせてどれ位をかけましたか	3 時間 より多く	2 ~ 3 時間	1 ~ 2 時間	30 分 ~ 1 時間	30 分未満
	この授業は総合的に見て満足 できた	大いに そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	全くそうは 思わない

この質問について各学科の回答結果を纏めてみると、以下のような結果になります。これは学科で開講された全講義科目の平均値で示してあります。

- (1) 図に、授業は理解度できたか(項目)との質問に対する結果を示します。学科によって若干の相違や多少の年度・学期による上下は見られますが、総じて授業の理解が深まったと答えた学科が増加していることが分かります。

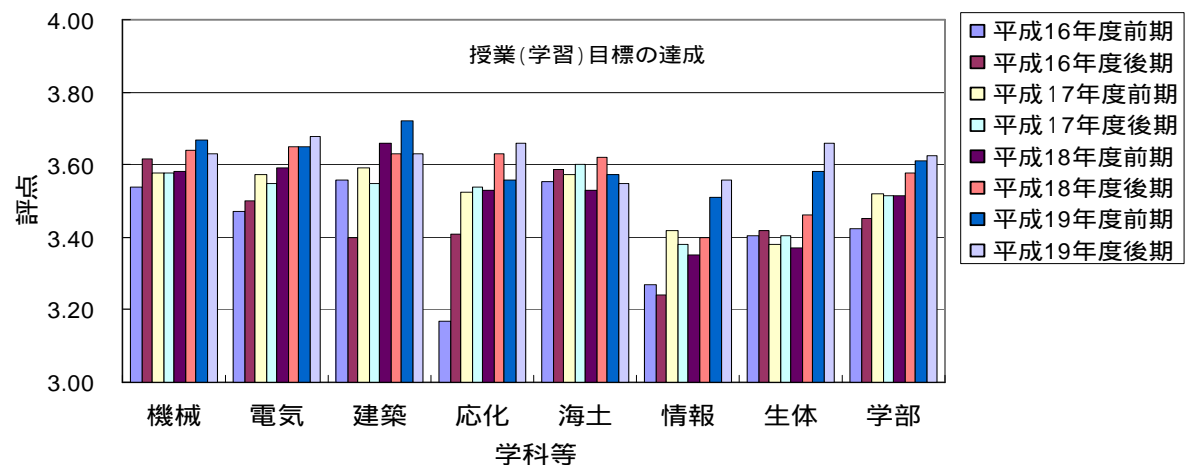


(2) 使用した教科書や教材は授業の理解に役立ったか(項目)との質問に対する回答結果を示しています。学科によって若干の相違や多少の年度・学期による上下は見られますが、総



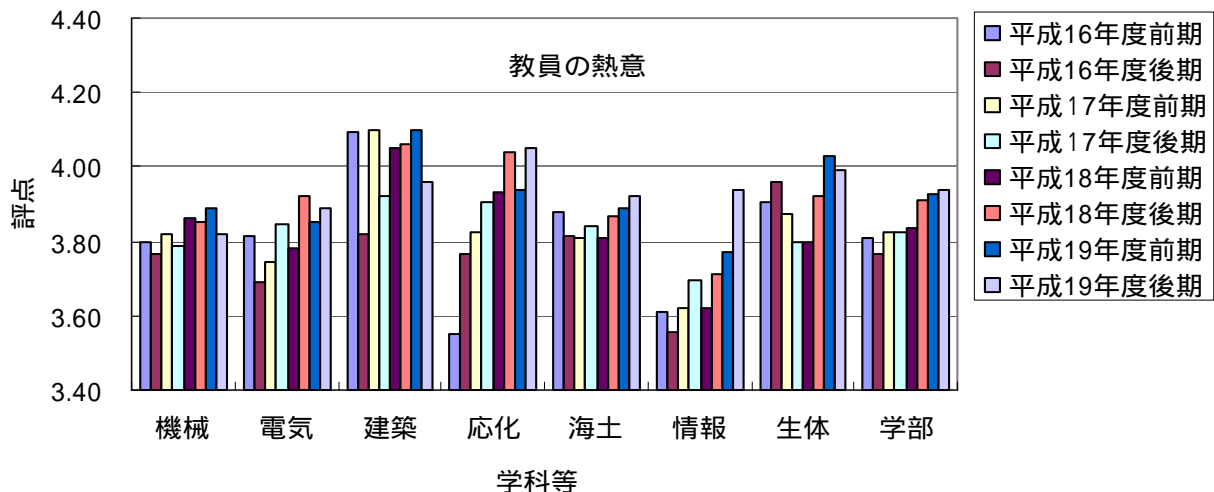
じて授業の理解が深まったと答えた学科が増加していることが分かります。

(3) シラバスに記載された授業目標を達成できそうだと(項目)との質問の回答を示していま

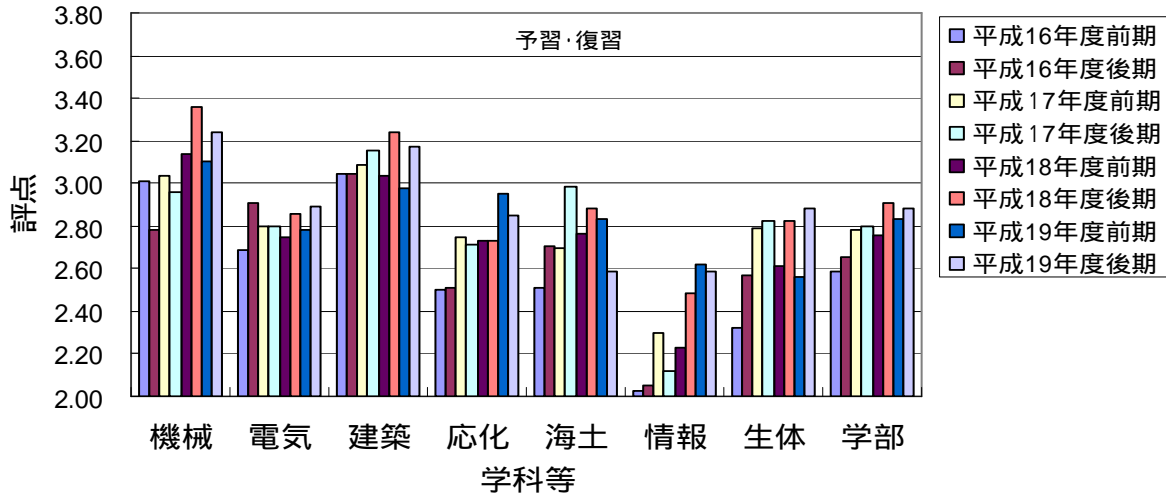


す。総じて年々向上していますが、未だ十分で無いと思う学生が多いことを示しています。

(4) 学生に理解させようとする教員の熱意を感じた(項目)との質問に対する回答を示しています。全体に比較的高い評価を示しており、教員の熱意を感じていることが分かります。

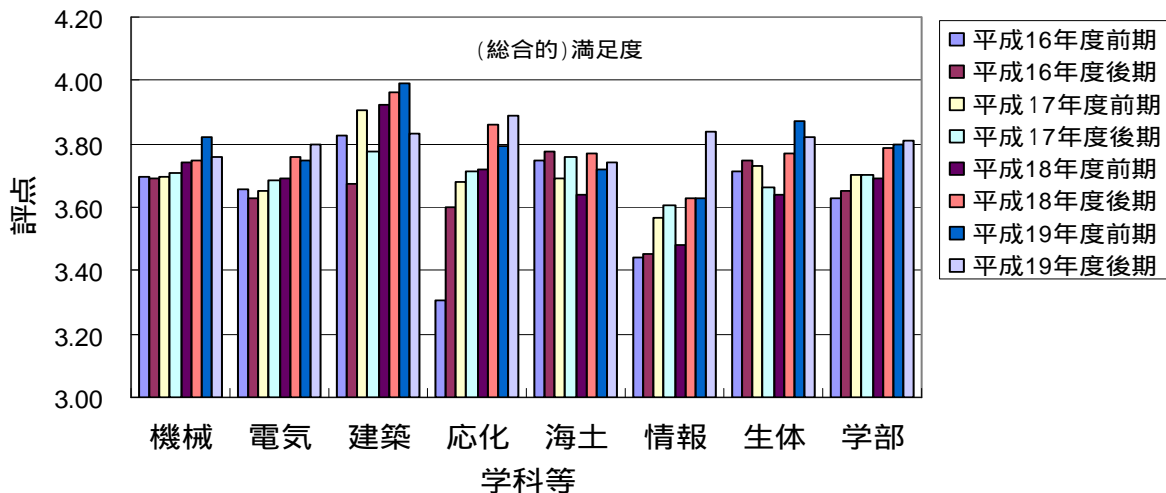


- (5) 1 コマの授業に対して、予習・復習の時間を合わせてどれ位かけましたか(項目)との質問に対する結果を示しています。学科によって少し異なっていますが、2 時間を超えていないことを示しています。予習・復習は授業の理解度を高めるために非常に重要なものであると、シラバスに示してありますが、授業の理解に対する結果と対比しますと時間が多い



学科の学生ほど理解も増加していることが分かります。

- (6) この授業は総合的にみて満足度できるものでしたか(項目)との質問に対する結果を示しています。学科によって異なりますが、大体期待した成果が得られたと評価していることが分かり、年々少しずつですが増加しています。



(7) 授業計画改善書

授業アンケートの結果を受けて、教員は、科目ごと授業計画改善書を次年度に向けて作成し、「目標の達成度の向上」を図る試みを行っています。その中では、例えば、「成績の評価基準としてシラバスに示した基準に従って成績の評価を行った結果が期待したものでなかった。そこで、試験に偏った学習評価では効果が少ないので、レポートのなどの割合を増やし、学習効果の向上を目指す。」ことなどが述べられています。

以上のように授業アンケートはシラバスに示された学習目標を達成し、それに相応しい十分な学力を有した学生の教育を目指したものであることを理解して下さい。このため、今後実施する授業アンケートには正確に回答してもらうことで、一層の改善に繋がっていくことを理解して下さい。より詳しい分析結果は、平成 19 年度工学部 FD 委員会報告書第 3 章にも報告しています。